

## 【小樽間税会会長賞】

### メリットとデメリット

小樽市立菁園中学校 二年

奥谷 優太

中二の社会の教科書に「日本は今、少子高齢化が進んでおり、年金などの面で若い世代への負担が重くなってきた」という内容のことが書かれていた。正直むっとしたし、「自分で稼いだお金は、自分で使いたい。」と思った。

ところで、みなさんは「ふるさと納税」というものをご存知だろうか。

「ふるさと納税」とは、自分の出身地域や応援したい自治体に寄付ができる制度だ。これは、かつて住んでいたところだけでなく、まったく縁のなかった土地への寄付でもよい。そのため、

「震災からの復興に使ってほしい」

「地域独特の産業を保護してほしい」

などの支援も可能だ。また、自治体によっては寄付金の使い道を指定できるといふことも「ふるさと納税」ならではの特徴だ。

しかし、ここまでの内容だと、年金の話と同じく他の人にはメリットがあるが、自分には「全く」メリットがないように思える。だが、そんなこともなく、メリットの方が大きいくらいだ。

そのメリットは、大きく二つある。

一つ目は、所得税や住民税が減額されることだ。上限額はあるが、基本的には二千円の自己負担だけでよい。例えば、一万円寄付した場合、八千円が所得税や住民税から差し引かれるということだ。

二つ目は、寄付をした自治体からお礼品がもらえることだ。これは、それぞれの自治体によって違うので、お礼品を基に寄付する自治体を選ぶのもいいかもしれない。

「ふるさと納税」は、納税することで自分にもメリットがあることが分かりやすい例だと僕は思っている。要するに言いたいのは、「ふるさと納税」だけじゃなく消費税などでも税金を納めることで、「自分を含め」様々な人々に税金が使われているということだ。

例えば、僕が住んでいる小樽市は冬に降る雪が多い。また、坂道も多い。そのため、冬に欠かせないのは「除雪」と「ロードヒーティング」だ。

僕たちがごく普通に歩いている、きれいに整備されている道路。しかし、それをするにはとても大きな費用が必要だが、税金があるから整備できる。登校時、ロードヒーティングになっていない坂道を下るが、いつも滑って転びそうになる。この時、ロードヒーティングのありがたみをとんでも感じる。税金は人々の安全にも使われているのだ。

今まで、「税金を払ったところで、自分の負担が増えるだけだ。」と税金に対して不満を持っていた。でも、考え方を少し変えるだけで、税金に対するイメージが相当変わった。税金を払うから、僕たちは安全に楽しく生活できている。なので、将来税金を払うときは、「税金があるから人々の暮らしが豊かになっている」ということを思い出して払いたい。